日本代表が語る、世界一までの軌跡

女子デフバレーボール日本代表、100周年大会で金メダル獲得

2025年11月15日～26日、東京2025デフリンピックが開催されました。日本では初めての開催であり、1924年にパリで第1回大会が開催されてから100周年の記念すべき大会となりました。

日本選手団は各競技で着実に成果を挙げ、金16個、銀12個、銅23個の計51個のメダルを獲得。金メダル数、総メダル数ともに過去最多となり、日本のデフスポーツにおける競技力の向上を示す結果となりました。

左から梅本綾也華選手、石原美海選手、戌丸奈美選手、梅本沙也華選手（tortoise/大阪市チーム所属）

東京2025デフリンピック大会エンブレム

デフバレーボール女子日本代表チームは、前回の2021ブラジルデフリンピック（以下、前回大会）でコロナの影響により途中棄権を余儀なくされ、対戦が叶わなかったトルコを相手に、決勝戦でストレート勝利。見事金メダルを獲得しました。

日本中に感動と勇気を与えた日本代表選手の4名に、大会での活躍やデフバレーボールへの思いについてインタビューしました。

金メダル獲得の瞬間

石原　世界一が決まった瞬間、涙が溢れて止まりませんでした。前回大会で悔しくも途中棄権した経験や二度とないかもしれない日本開催で、これまで私たちを支え、応援してくださった方々に恩返しができる絶好の機会だったので、何としてでも金メダルを獲ると、この大会に懸ける思いは大きかったです。

最も印象に残っている場面

梅本（沙）　準決勝のウクライナ戦です。世界大会でウクライナと当たるのは3回目で、これまで勝ったことがないチームでした。

1・2セット目は日本が取りましたが、3・4セット目はウクライナがリード。フルセットまでもちこされ、泣いても笑っても後がない焦りと緊張感がありました。前回大会のウクライナ戦がまさに同じパターンで、負けてたまるかという思いで最後まで戦い抜きました。三度目の正直で打ち勝つことができて本当にうれしかったです。

戌丸　ウクライナ戦最後の5セット目がはじまる前に絶対に負けたくないと円陣を組んでチーム全員で挑みました。コート外のメンバーも必死に応援ダンスで盛りあげ鼓舞した結果、ウクライナに3対2で勝利することができました。やっとウクライナに勝てたことがうれしくて全員で抱きあい涙を流しました。あの瞬間に「絶対に勝てる、金メダル取れる！」と自信がつき、優勝につながったと感じています。

チームとして大切にしてきたこと

梅本（綾）　耳がきこえない分、アイコンタクトや手話言語でコミュニケーションをとることを一番大切にしていました。プレー前にサインを決めてラリー中にしっかりコンビをあわせる他、海外の選手は背が高いので、"速さ"を武器に速攻をメインとして使えるように、まず一本目の質を意識して練習してきました。

大会では今までにない速攻をたくさん使えたことが勝利につながったと感じました。

これからの挑戦、デフバレーボールへの思い

梅本（綾）　金メダルを獲得することができたのは皆様の応援や声援があったからこそなので、感謝の気もちでいっぱいです。

今後もデフバレーボールやデフスポーツの知名度をさらに広めるために一生懸命にプレーしながら発信していきますので、引き続き応援をよろしくお願いします。

石原　初めての日本開催ということで、多くの人にデフリンピックへの興味をもっていただけた良い機会だったと思います。私自身もデフバレーボールを通して、もっと多くの方に知ってもらい、将来の子どもたちにとって"挑戦したい"という気もちの支えになれたらうれしいです。

準決勝・ウクライナ戦　梅本（沙）選手がアタック

梅本綾也華さん、沙也華さんの一年前のインタビュー記事はこちら（ふくしおおさか第701号）

梅本 綾也華（うめもと あやか）（主将）
デフバレーボール女子日本代表
代表歴：7年　出身：大阪府

梅本 沙也華（うめもと さやか）
デフバレーボール女子日本代表
代表歴：7年　出身：大阪府

石原 美海（いしはら みなみ）
デフバレーボール女子日本代表
代表歴：7年　出身：北海道

戌丸 奈美（いぬまる なみ）
デフバレーボール女子日本代表
代表歴：12年　出身：大阪府

ズームアップ ZOOM UP!

笑顔 咲かせる人 vol.39

このコラムでは、福祉の職場で働く人を紹介し、仕事や人の魅力を伝えます。今回登場するのは、入職5年目の松田さん。やりがいや今後の抱負について聞きました。

学びを生かして

大学では心理学を専攻していました。学びを生かせる仕事がしたいと思い、見つけたのが児童心理治療施設。乳児院でのボランティアや障がい者施設での就労体験があり、福祉業界には関心をもっていました。保育や福祉を専攻していたわけではありませんが、あたたかそうな雰囲気を感じ、ここで働きたいと思い入職しました。

現在は、女子フロアの児童2名を担当し、食事やお風呂のマナー、対人関係、お小遣い管理など、生活の指導をおこなっています。職員が得意な分野を教えることもあり、私は編み物を一緒にしています。

子どもの行動の意味を考え、気もちを受け止める

退所まで見守ることができたとき、最もやりがいを感じます。反抗期・思春期の時期の子どもたちなので、無視されたり暴言を吐かれたりして対応に悩んだこともありましたが、先輩職員から「気もちを受け止めてあげて」とアドバイスをもらい、子どもの気もちに寄り添うことができるようになりました。

ずっとこの仕事がしたい！

休日は、同期職員と岩盤浴に行く、最近買ったエスプレッソマシンで大好きなコーヒーを嗜むことなど、リフレッシュしています。

毎日楽しみながら働くことを心がけていて、子どもたちの面白いところ、ほっこりするところをたくさん見つけて、他の職員にも伝えるようにしています。

良い職場環境で、なにより子どもたちの成長を近くで見守ることができるのが本当にうれしく思います。一人でも多く退所につなげられるように、そして退所後もみんなから愛される子に育つように、この仕事に長く携わりたいです。

社会福祉法人 大阪府衛生会 児童心理治療施設
希望の杜
松田 冴乃（まつだ さえの）さん

この広報紙の作成には共同募金配分金を活用させていただいています